

**2021 年度 森泰吉郎記念研究振興基金 研究者育成費
研究成果報告書**

研究題目：映画音楽作曲家の楽曲制作活動における型の抽出

所属・学年：政策・メディア研究科 修士課程 2 年

研究者代表氏名：鈴木 峻平

【研究概要】

本研究は、映画音楽作曲家・渡邊崇氏の作品制作活動を事例として、その制作活動に内在化している、その作品制作に潜んでいる「型」を明らかにするものである。本研究の目指していることは、半ば無自覚的で実践者本人にすら説明の難しかった、作品の制作活動を理解するための方法を提案し、実際にひとりの作家とともにその制作活動を読み解くことである。そのために本研究では、作品制作をおこなっている本人の体験している世界をその人の側から理解する質的研究を実施した。そして、制作活動への主体的意味づけを本人とともに見出し、他者に理解可能なかたちで表現するために、良い制作活動のために重要となることの本質観取をおこない、パターン・ランゲージとして記述することとした。

そして、具体的実践として、映画音楽作曲家の渡邊崇氏とともに彼の制作活動における型を抽出し、2 種類のパターン・ランゲージを制作した。その結果、楽曲のデザインのパターン・ランゲージである「心に響く音楽のかたち」と、作曲活動のパターン・ランゲージである「心に響く音楽のつくりかた」の 2 種類のパターン・ランゲージを制作することができた。

【本研究の対象と研究手法】

本研究の調査には、作曲家の渡邊崇氏に協力をいただいた。渡邊氏は、映画やドラマなどの劇音楽を中心に楽曲を制作し、提供する作曲家である。手がけた代表的な作品には、映画『舟を編む』（2013、同作品にて第 37 回日本アカデミー優秀音楽賞受賞）や『夜空はいつでも最高密度の青色だ』（2017）、『浅田家！』（2020）などの映画をはじめ、ミュージカル『プリムシスターズ』（2020）やテレビドラマ『1942 年のプレイボール』（2017）などの劇中音楽がある。本研究では、渡邊氏の作曲した作品や、その作品の制作活動を対象として、2 種類のパターン・ランゲージの制作を実施した。すなわち、楽曲のデザインにおける工夫についてのパターン・ランゲージと、作曲の活動それ自体における工夫についてのパターン・ランゲージである。

【2021 年度の研究活動内容】

本研究は、2020 年度秋学期から継続して取り組んでいるものである。昨年度は、①楽曲のデザインのパターン・ランゲージ「心に響く音楽のかたち」の制作を実施した。本年度は、それを継続して実施することに加えて、②・③の活動を実施した。

- ① 楽曲のデザインのパターン・ランゲージ制作（～2021 年 9 月）
- ② 作曲活動のパターン・ランゲージ制作（2021 年 7 月～2021 年 12 月）
- ③ 得られたパターンと共通する他の作家の語りの資料探索（2021 年 7 月～2022 年 1 月）

【研究結果】

① 楽曲のデザインのパターン・ランゲージ制作

渡邊崇氏の制作した楽曲のデザインにおいて大切だと考えていることやデザイン上の工夫などを抽出し、パターン・ランゲージの形式で記述した。制作したパターン・ランゲージを、「心に響く音楽のかたち：感動をもたらす楽曲のパターン・ランゲージ」と名付けた(図)。このパターン・ランゲージ制作プロジェクトは、昨年度より申請者が修士研究として実施していた研究プロジェクトである。渡邊氏の制作した楽曲計 25 曲の楽曲解説の資料探索や、渡邊氏とともに実施した楽曲分析やインタビューから得られた情報を素材として制作した。その結果、27 のパターンを得ることができた。パターンは、実際の楽曲制作のフェーズごとに 3 つのカテゴリに分けてまとめている。

心に響く音楽のかたち — 感動をもたらす楽曲のパターン・ランゲージ —



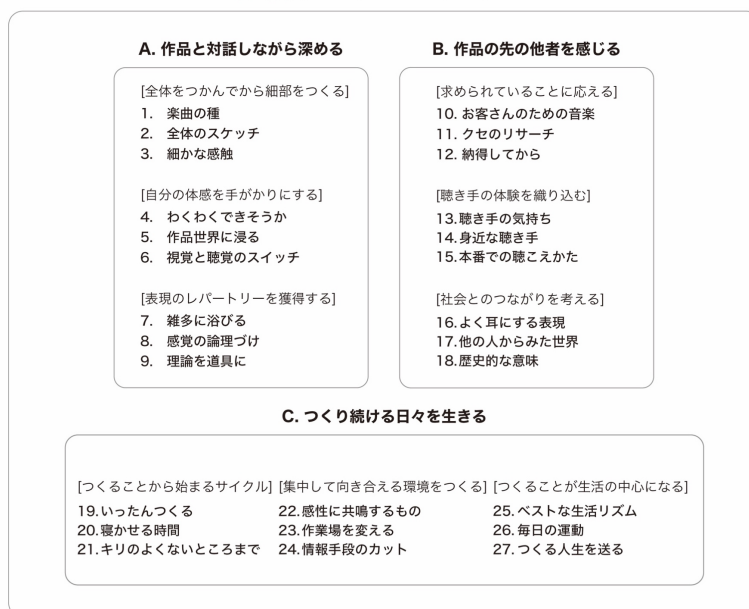
② 作曲活動のパターン・ランゲージ制作

渡邊氏が楽曲の制作活動中に、どのような態度で臨んでいるのか・どのような工夫を凝らしているのかを探究し、作曲活動中におけるつくり手の位相や工夫を示すパターン・ランゲージ

ジを制作した。そのパターン・ランゲージを、「心に響く音楽のつくりかた：作曲活動のパターン・ランゲージ」と名付けた（図）。

このパターン・ランゲージ制作プロジェクトは、申請者が今年度よりスタートした研究プロジェクトで、これもまた修士研究の一環として取り組んだものである。渡邊氏へのインタビュー調査を分析した結果、制作活動に臨むつくり手としての位相は「作品と対話しながら深める」こと、「作品の先の他者を感じる」こと、「つくり続ける日々を生きる」ことの3点に分化できることが明らかになった。以上の3点をカテゴリとして、その態度・ありようの実現を可能にしている渡邊氏の制作活動上の工夫を、パターンとしてまとめた。

心に響く音楽のつくりかた —作曲活動のパターン・ランゲージ—



③ 得られたパターンと共通する他の作家の語りの資料探索

「心に響く音楽のつくりかた」で得られたパターンは、他の作家にとっても共通して重要だと感じているのか、ひろく制作活動に対してひらかれうるものになっているのかをたしかめるため、さまざまな作家のエッセイの資料探索をおこなった。具体的には、村上春樹、村上隆、保坂和志、久石譲、鷺巣詩郎、青柳いづみこ等の作家（「つくること」の実践者）や、クリストファー・アレグザンダー、ティム・インゴルド、リチャード・セネット、ミハイ・チクセントミハイ、小松佳代子、森田亜紀、水野学、光嶋裕介など、ひろく「つくること」をテーマとする研究・探究者の著作を探索した。その結果、「心に響く音楽のつくりかた」の内容と同様のことを、ほかの作家や研究者も指摘していることがわかった。

【本研究の意義・今後の展望】

本研究によって、本人のなかに閉じられていた作品制作への主体的意味づけや、制作を進めるための作品のデザイン・制作活動における工夫といった経験則を記述・名付け・体系化することができた。そのことによって、渡邊氏本人が自身の経験を他者に共有したり、渡邊氏以外の作り手がその経験則を参照したりすることが容易になると考えられる。以上のようなパターン・ランゲージの制作現場や教育現場における活用の観点は、今後のフューチャー・ワークとしたい。

また、本研究の成果である「心に響く音楽のかたち」は、2022年7月に欧州にて開催されるパターン・ランゲージの国際学会 EuroPLoP にて、「心に響く音楽のつくりかた」は別の学会にて発表を予定している。

【謝辞】

助成いただいた森泰吉郎記念研究振興基金は、本研究におけるインタビュー調査やパターン・ランゲージ制作の遂行のための機材や、資料探索のための文献の調達に充当させていただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。